

# **第4期西興部村総合計画**

**平成24年度～平成33年度**



# 目次

## 序論

第1章	第4期西興部村総合計画について	2
1	計画策定の趣旨	2
2	計画の位置づけ	2
3	計画の構成と計画期間	3
第2章	むらづくりに関する住民の評価と意向	5
1	「住民アンケート調査」について	5
2	現状と評価	5
3	むらづくりの意向	8
第3章	時代の流れとむらづくりの主要課題	10

## 基本構想 [むらづくりビジョン]

第1章	むらづくりの基本理念	18
第2章	将来ビジョン ～むらづくりのテーマ～	20
第3章	将来人口	21
1	人口動向	21
2	将来の人口指標	25
第4章	むらづくりの目標	27
1	むらづくりの基本目標	27
2	むらづくりの分野別目標	27
第5章	むらづくりの施策体系	29
1	施策体系	29
2	施策の大綱	30

## 基本計画 [むらづくりプラン]

基本計画 計画書の見方	34
第1章 美しく快適で安全なむら	36
1-1 自然環境の保全	36
1-2 秩序ある土地利用	38
1-3 美しい景観づくり	39
1-4 環境衛生の推進	41
1-5 道路・交通網の整備	43
1-6 住環境の整備	45
1-7 上・下水道の整備	47
1-8 情報化の推進	49
1-9 消防・防災体制の充実	51
1-10 交通安全・防犯の推進	53
第2章 とともに支えあい、安心して暮せるむら	55
2-1 健康づくり・医療体制の充実	55
2-2 子育て環境の充実	57
2-3 障がい者福祉の充実	59
2-4 高齢者福祉の充実	61
第3章 活力と交流のむら	64
3-1 酪農の振興	64
3-2 林業の振興	66
3-3 商工業の振興	68
3-4 観光・交流の推進	70
第4章 人と文化を育てるむら	72
4-1 学校教育の充実	72
4-2 生涯学習・スポーツの推進	74
4-3 地域文化の醸成	77
第5章 みんなで創るむら	79
5-1 協働のむらづくりの推進	79
5-2 行財政運営の効率化	81

## 資料編

1. 諮問書	86
2. 答申	86
3. 第4期西興部村総合計画の策定経過	87
4. 第4期西興部村総合計画審議会委員	88
5. 第4期西興部村総合計画策定委員	89
6. 西興部・上興部市街地（空撮）	90

本文中の※印の付いた用語については、各章（序論、基本構想）、項目（基本計画）の最後に用語説明があります。





# 序 論

# 第1章

## 第4期西興部村総合計画について

### 1 計画策定の趣旨

西興部村は、長期的な行政運営の総合的指針として、昭和59年からこれまで3期にわたり「西興部村総合計画」を策定し、平成14年3月に策定した「第3期西興部村総合計画」では、“心安らぐ美しい夢のIT\*タウン”をむらづくりテーマとして掲げ、今日までその実現に向けたむらづくりを進めてきました。

しかしながら、この間、西興部村を取り巻く社会・経済情勢は、少子高齢化の進行、国や北海道の財政の悪化、高度情報化の進展、環境意識の高まりなど大きく変化し、私たちの生活にもさまざまな影響を与えています。

とりわけ平成の大合併では、西興部村も地域懇談会などの協議を重ね、その結果として、平成15年11月「当分の間、単独で行政を運営する道」を選択しました。その後は「自分達の村のことは自分達で」を第1の基本姿勢とした「第3次行財政改革大綱」により、「小さいからできる」、「西興部村だからできる」を念頭に行政運営を進めてきました。

また、平成23年3月の東日本大震災という未曾有の大災害以降、私たちが安心して暮らすための防災や危機管理への意識・ニーズ\*も高まっています。

こうした状況の中、今日求められているのは、これまでの右肩上がりの経済成長を前提にした行政運営ではなく、住民一人ひとりが誇りを持って安心して暮らせるような行政運営です。

「第4期西興部村総合計画」は、こうした状況の変化と視点に立って、これまでのむらづくりの成果と課題を踏まえ、村のさらなる発展のために、今後めざすべきむらの姿(将来ビジョン\*)とその実現に向けた考え方・方策を示す新たな指針として策定するものです。

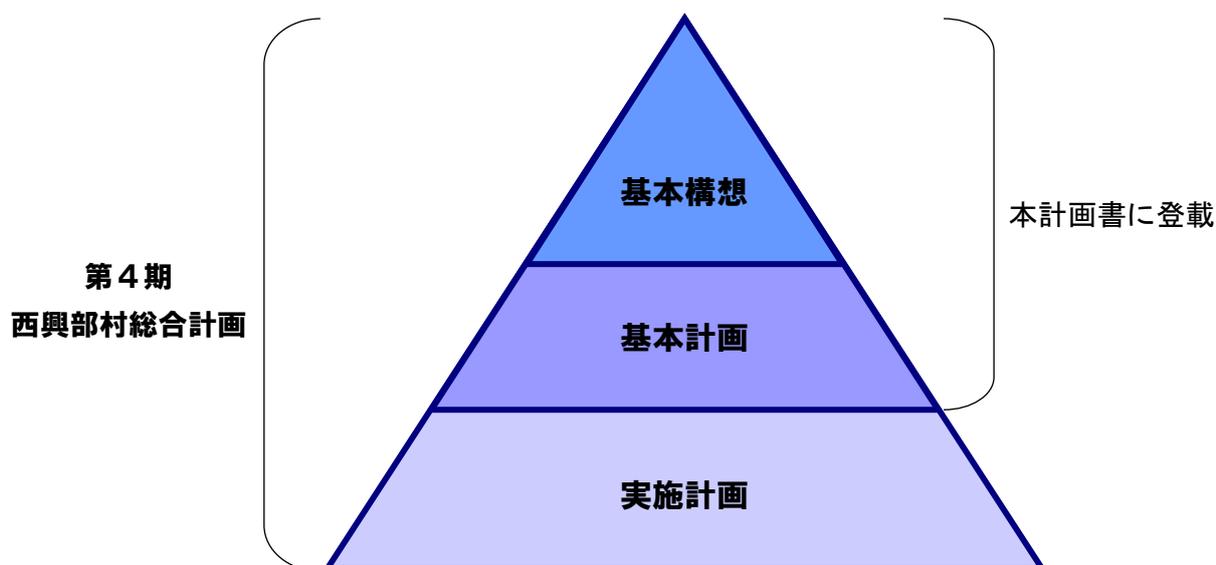
### 2 計画の位置づけ

本計画は、西興部村における計画体系の最上位計画として位置づけられ、「西興部村議会の議決すべき事件に関する条例」第2条に規定する議決すべき事件として規定されております。

また、本計画は、西興部住民の生活と活動の規範である「村民憲章」を前提とするものです。

### 3 計画の構成と計画期間

「第4期西興部村総合計画」は、“基本構想”“基本計画”及び“実施計画”によって構成されます。



#### 基本構想

行政運営を総合的かつ計画的に行う指針となるもので、西興部村の長期的視点からの目指すべきむらの姿（将来ビジョン）及びそれを達成するために必要な施策の大綱を明らかにするものです。

“基本構想”の計画期間は、平成24年度から平成33年度までの10年間とします。

#### 基本計画

“基本構想”に掲げる目指すべきむらの姿（将来ビジョン）を実現するため、西興部村が今後10年間で取り組むべき主な施策等について、その展開の考え方を示すものです。

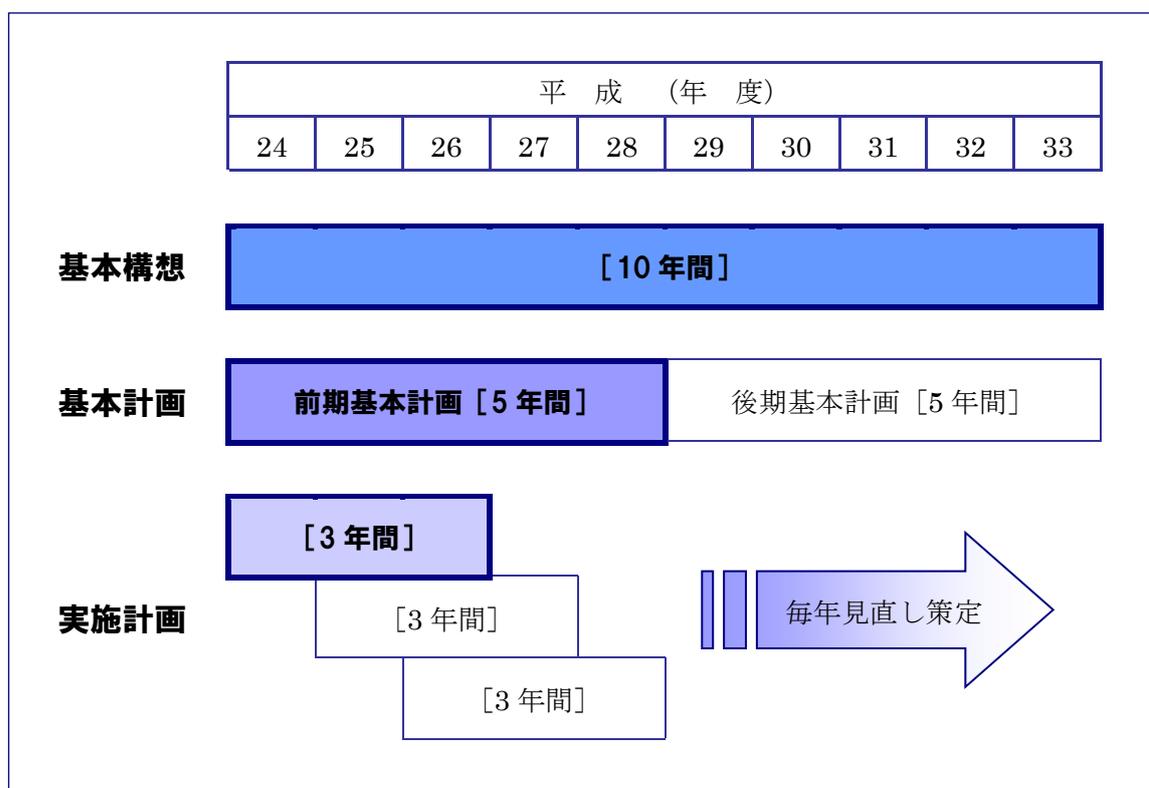
“基本計画”は、長期的視点に立った“基本構想”の実現を中期的視点から具体化するため、平成24年度から平成28年度までの5年間の計画期間とする“前期基本計画”及び平成29年度から平成33年度を計画期間とする“後期基本計画”によるものとします。なお、“後期基本計画”については、“前期基本計画”の最終年度である平成28年度に“前期基本計画”を見直して策定します。

## 実施計画

“基本計画”に基づき取り組むべき具体的な実施事業を明らかにするもので、西興部村における毎年度の予算編成・組織機構などの経営方針となるものです。

“実施計画”は、財政計画等との整合を図り、可能な限り具体的な事業内容・財源・時期などを示します。

計画期間は3年間とし、毎年度の事業の評価・検証を行いながら見直しするローリング方式により事業の進行管理を行うこととします。



## 用語説明

### IT

○「Information Technology」の略で情報技術や情報産業のこと。

### ニーズ

○必要、要求、要望のこと。

### ビジョン

○将来の見通し。構想。未来像。

## 第2章 むらづくりに関する住民の評価と意向

### 1 「住民アンケート調査」について

本計画の策定にあたっては、16歳以上の住民全員を対象とする「住民アンケート調査」を各町内・地区班長のご協力を得ながら実施（平成22年10月）し、これまでのむらづくりに関する住民の評価や今後のむらづくりに関する意向等を把握しました。

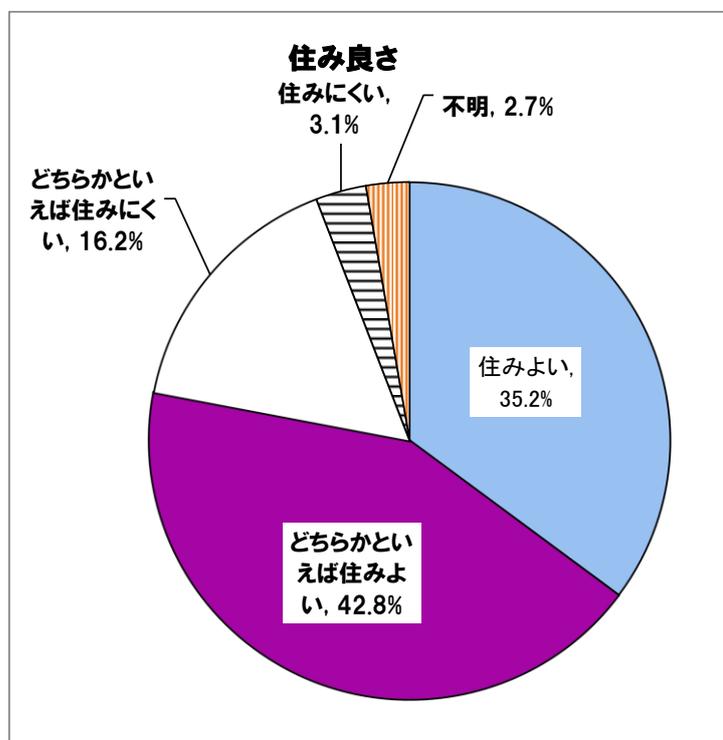
	配布数	回収数	回収率
住民アンケート調査	930票	700票	75.3%

### 2 現状と評価

#### (1) 村の住み良さ

「住みよい」「どちらかといえば住みよい」を合わせると8割近い方が西興部村は住みよいと感じており、これはこうした住みやすさ評価として決して低い数字ではありません。

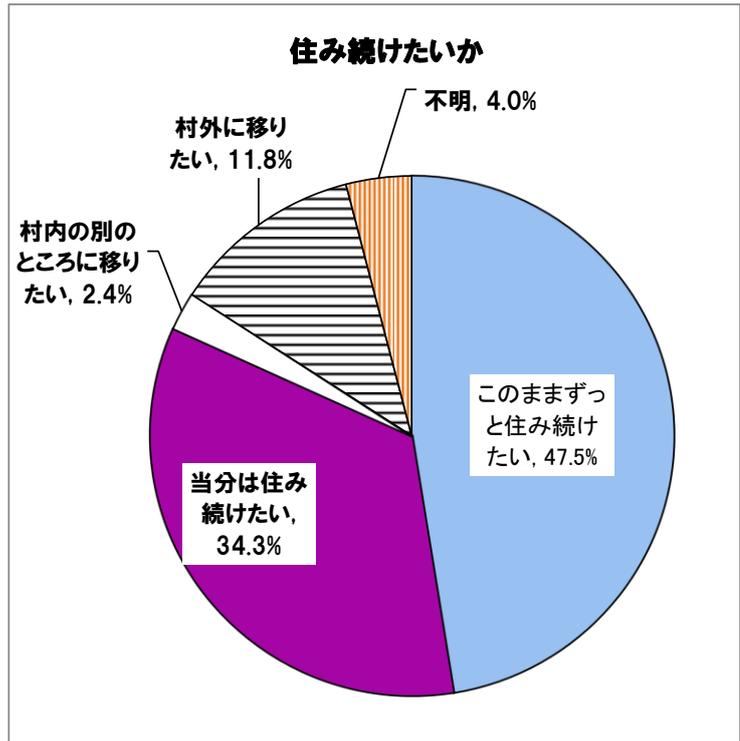
しかし、年齢別にみると、39歳以下では4割近い方が「住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」と感じており、こうした比較的若い年代の住みやすさ評価を向上させていくことが重要になってきます。



## (2) 村への定住意向

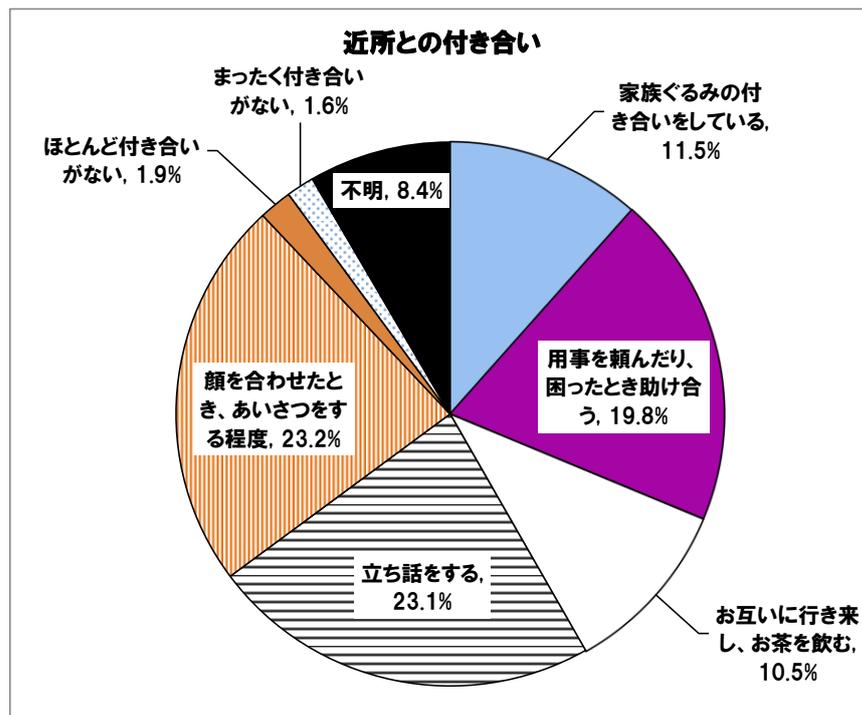
「このままずっと住み続けたい」「当分は住み続けたい」を合わせると8割以上を占めています。

しかし、年齢別にみると、29歳以下では3割以上の方が「村外に移りたい」と考えており、村の住み良さに対する評価と併せ、今後の重要な課題と言えます。



## (3) 近所付き合い

近所との付き合いの程度については、大都市等の状況に比べると悪くはありませんが、それでも「顔を合わせたとき、あいさつをする程度」という方が2割以上を占めている点には留意する必要があります。

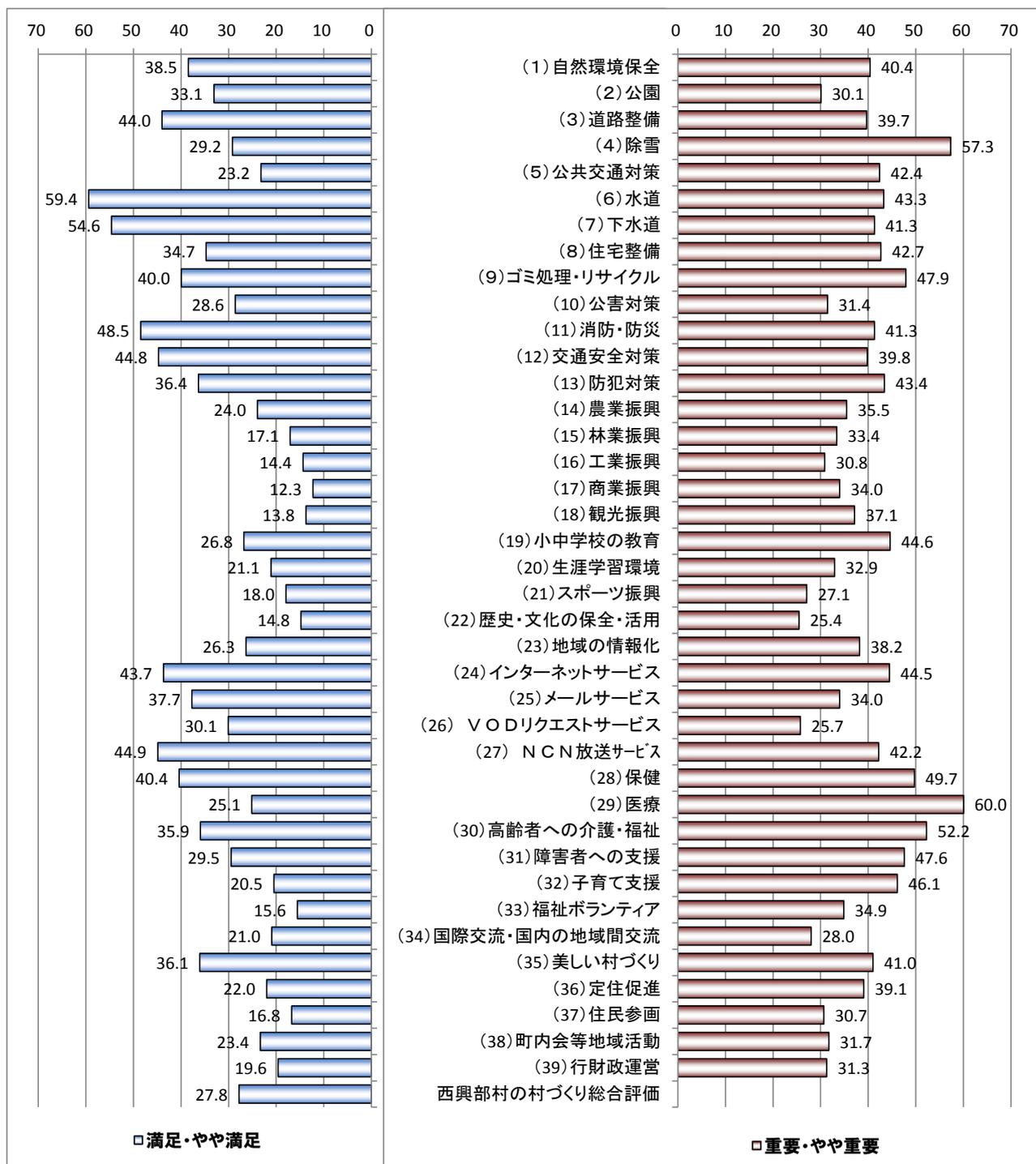


## (4) 生活環境等の各種分野別の評価（満足度と重要度）

満足度と重要度という2つの視点からの評価は、自然環境保全や水道等の生活環境について比較的満足度が高くなっています。

しかし、除雪、公共交通対策、医療、子育て支援といった分野については、住民が重要視しており関心も高い分野であるにもかかわらず、満足度は低い状況です。

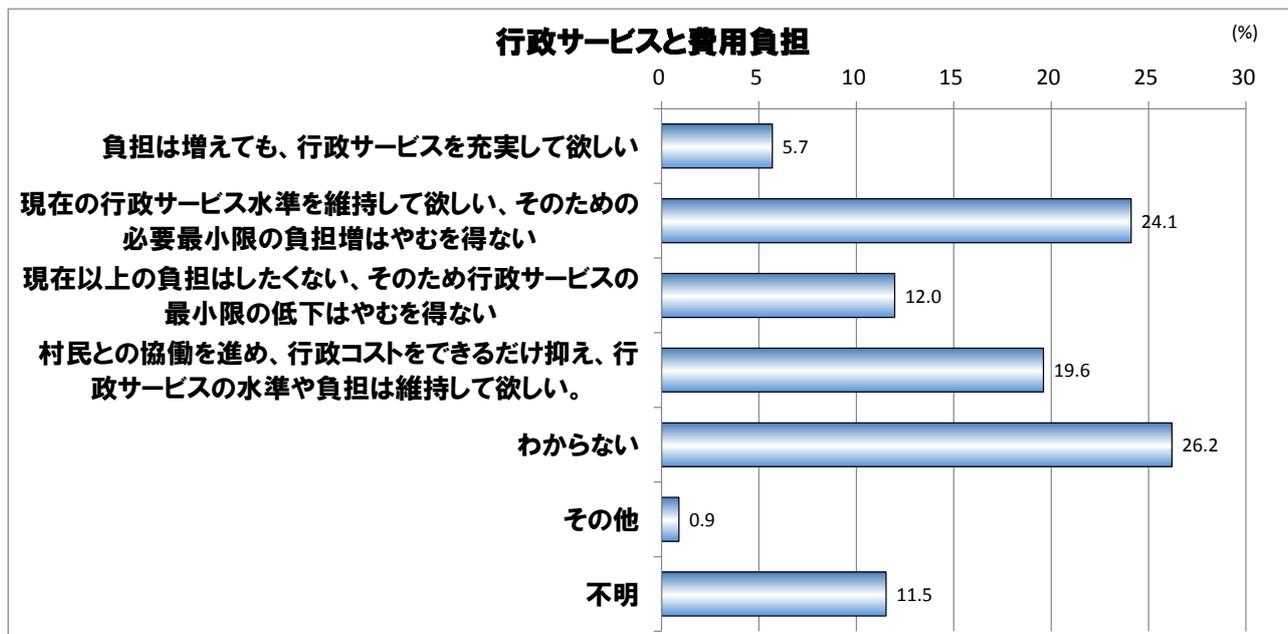
冬場を中心とする移動・交通手段の確保や、福祉・医療を含めた安心・安全面へのニーズが高いものと考えられます。



### 3 むらづくりの意向

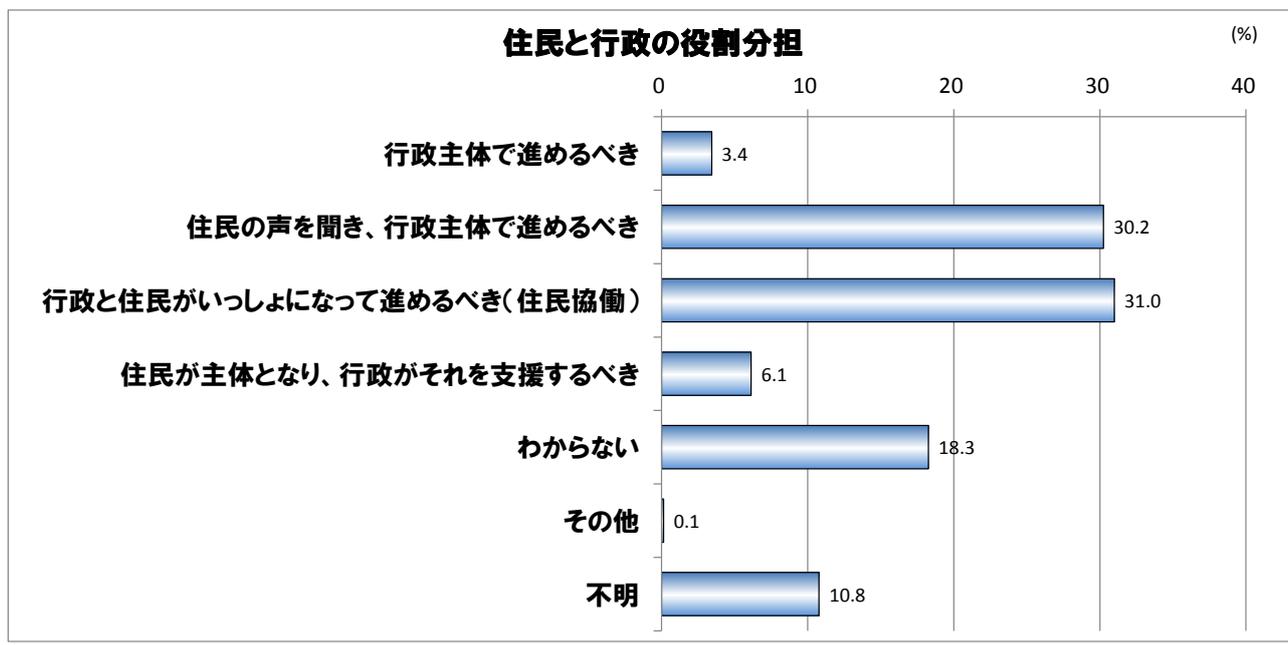
#### (1) 行政サービスと費用負担のあり方

今後の行政のあり方としては、現状のサービス水準を維持が求められており、そのためには住民との協働体制の確立についても一定のコンセンサスが得られているものと考えられます。



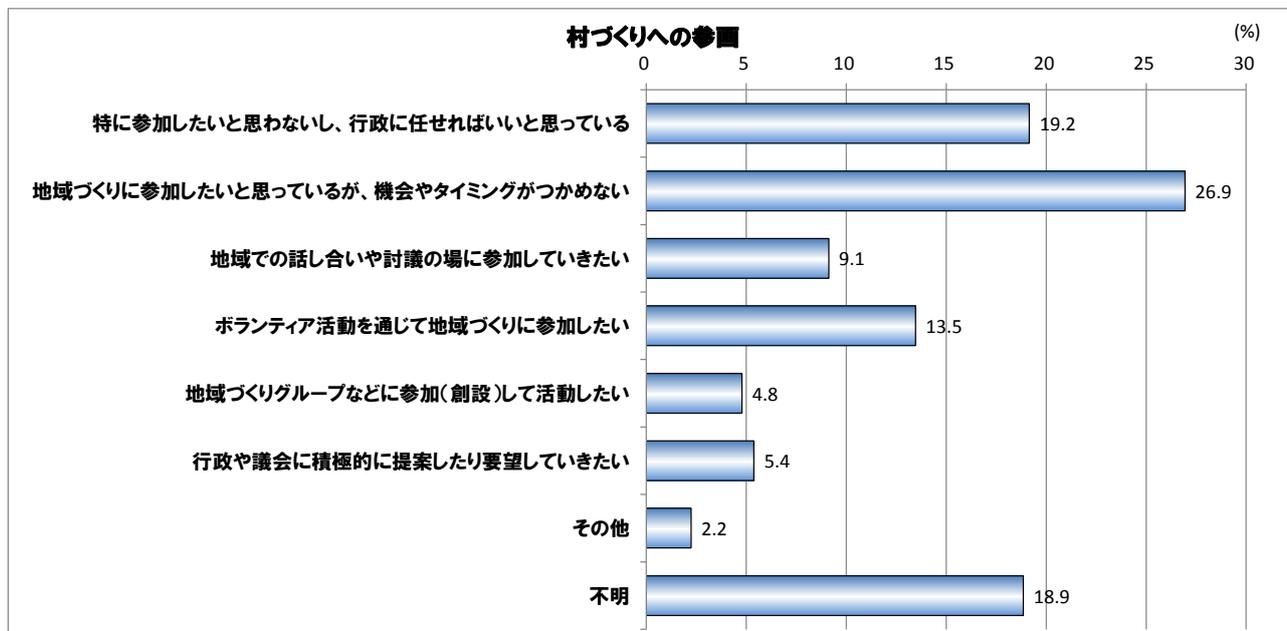
#### (2) 住民と行政の役割分担のあり方

「住民の声を聞き、行政主体で進めるべき」という意見と「行政と住民がいっしょになって進めるべき」という意見がそれぞれ3割程度あり、住民協働の形・あり方については、身近な地域での協働体制の確立を視野に、今後も十分な議論が必要です。



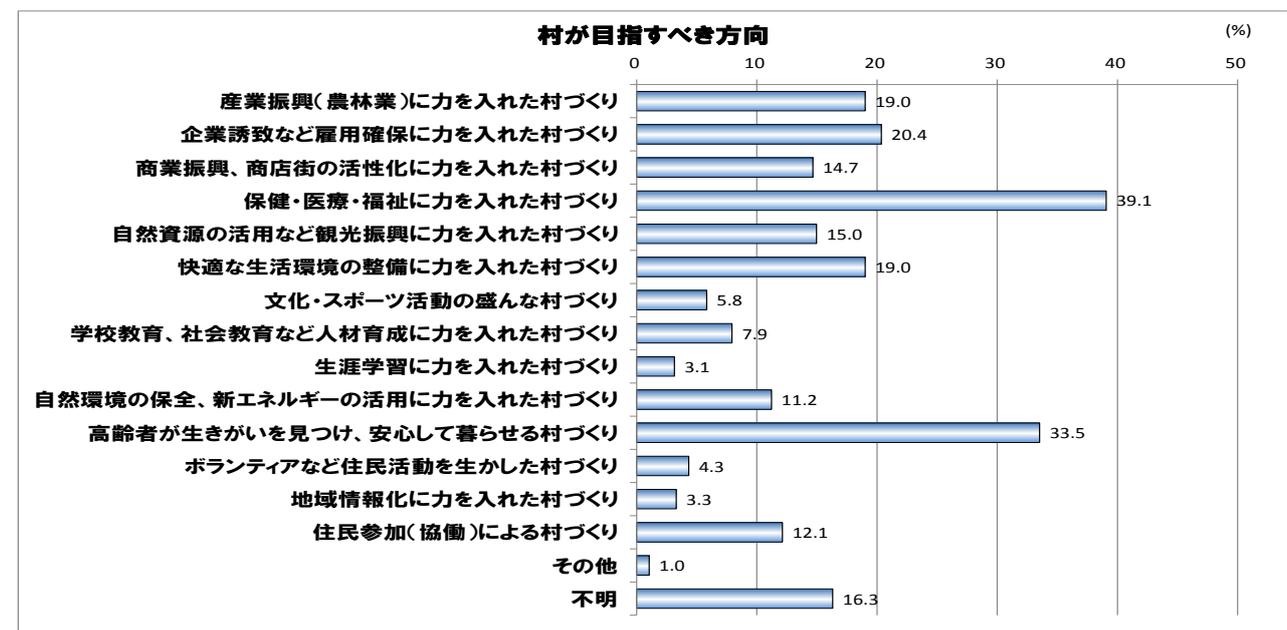
### (3) むらづくりへの参画

地域での話し合いなど、地域づくりに参加したいと考えている方が3割以上いますが、その多くの方は「機会やタイミングがつかめない」と感じており、今後はこうしたむらづくり・地域づくりのための話し合い等の場をできるだけ多く創出していくとともに、参加を呼びかけるなどの意識啓発・情報発信が求められます。



### (4) 今後目指すべき方向

今後のむらづくりについては、「保健・医療・福祉に力を入れた村づくり」「高齢者が生きがいを見つけ、安心して暮らせる村づくり」が多く挙げられています。安心・安定を基本に、より快適な生活環境をいかに創出していくか、そのためのしくみとして住民との協働体制をどのように構築するかが、今後の課題と言えます。



## 第3章

# 時代の流れとむらづくりの主要課題

少子高齢化や地方分権化の進展等、様々な社会経済情勢の急速な変化に対応するため、我が国における制度やシステムも新たなあり方・枠組みが求められています。

こうした社会経済情勢の大きな変化は、西興部村を取り巻く時代の流れとして捉えることができます。

時代の流れは、西興部村やそこに暮らす私たち住民の生活に大きな影響を及ぼしながら、今後も一層その度合いを強めていくことが予想されるものです。



## 時代の流れ

## 人口減少と少子・高齢化

- 我が国における出生数は 1970 年代前半にはおよそ 200 万人であったのが、最近では 110 万人程度にまで減少しています。
- こうした減少傾向には、親となる世代の人口規模の縮小や男女共同参画社会の成熟に伴う晩婚化の進展等が関わっています。
- 合計特殊出生率は、出生数低下が始まる前（昭和 46 年）の 2.16 が平成 18 年には 1.31 にまで低下、その後はやや回復し平成 22 年には 1.39 となっているものの、この数値は長期的に人口を維持できる水準（人口置換水準）2.07～2.08 を大きく下回っています。
- こうした変化が我が国の人口減少・高齢化を促しており、1920 年の国勢調査開始以来、人口増加を続けてきた我が国も平成 16 年をピークに人口減少時代へと突入しています。

## むらづくりの主要課題

西興部村においては、少子・高齢化等の人口構造の変化を背景に、子どもを産み育てやすい環境の整備が求められるほか、増加する高齢者が充実した生活を営めるよう、これまでに築いてきた福祉基盤等を活かした高齢者施策の展開と、高齢者がいつまでも生き生きと活躍できるむらづくりが求められています。

また、地域の行事などを維持するため、地域の担い手不足の解消が求められています。

## 時代の流れ

## 地域間・国際間競争の激化

- グローバル化<sup>\*</sup>や I T 化の進展などによって各国・各地域間の競争が激化する中、T P P<sup>\*</sup>（環太平洋連携協定）による輸入自由化の推進などにより、今後は益々こうした地域間競争が厳しくなることが想定されます。
- このような経済・社会状況の急速な変化に柔軟かつ的確に対応するとともに、活力ある地域として今後とも発展していくためには、地域資源や地域の特性を活かした魅力づくりが一層求められています。

## むらづくりの主要課題

西興部村の主要産業は酪農業であり、国際間競争への対応が強く求められる事が予想されます。また、林業も本村の重要な産業ですが、木材価格の低迷、生産コストの高騰による経営意欲の減退、担い手不足など、依然として厳しい状況にあります。

このような中でも、地域産業の振興のため、新たな経済環境に適応した付加価値の高い地域の特色を活かした産業の創出・育成が望まれます。

## 時代の流れ 高度情報化の進展

- インターネット※による地球規模での情報ネットワークの拡大や携帯電話の急速な普及を始め、情報通信技術の飛躍的な発展により、今日、情報の重要性はますます大きなものとなっています。
- こうした情報化・グローバル化は、社会経済活動のあり方を変えるだけでなく、人と人とのコミュニケーションやつきあい方を含むライフスタイル※の変化をもたらしています。
- 我が国においては“いつでも・どこでも・誰でも”がネットワークに安全に接続・利用できるユビキタス※社会の実現に向けた取り組みが始まっています。

### むらづくりの主要課題

西興部村では、平成元年に全戸へのケーブルテレビ※による放送を開始し、その後、全家庭に光ファイバー※を直接引き込むF T T H (Fiber To The Home)を導入し、平成14年から農業者や高齢者など村内住民に各種サービスを開始しました。

また、平成23年からは、超高速インターネットブロードバンド※サービスの開始やケーブルテレビ放送システムのデジタル化など、全国的にも先進的な地域情報化の取り組みを進めてきました。

今後は、こうした情報通信基盤を有効活用し、多様化する住民ニーズへの対応や地域の活性化に向け、より積極的に情報化を推進していくことが期待されます。

## 時代の流れ 環境保全への意識の高まり

- 世界規模での急速な人口増加や生産・消費活動の拡大により、食糧・資源・エネルギー等の需要増大が予測されるとともに、CO<sub>2</sub>(二酸化炭素)排出量の増大が原因ともいわれる地球温暖化※やオゾン層破壊等のさまざまな地球環境問題が深刻化しています。
- こうした状況を背景に、地球環境の保全と持続的成長の両立が国際的な緊急課題となっており、我が国においても新たな環境基本計画に基づく取り組みが求められています。

### むらづくりの主要課題

西興部村においては、自然環境への関心を高め、住民・地域・行政が互いに協力し合いながら、身近なエコ活動の推進とともに、豊かな自然を守り育て、環境にやさしいむらづくりを推進する必要があります。

## 時代の流れ 安全・安心への意識の高まり

- 平成 23 年の東日本大震災、地球温暖化に伴う集中豪雨の発生等を背景に、自然災害や防災に対する住民の関心・意識が急速に高まっています。
- また、高齢者等を狙った振り込め詐欺や凶悪犯罪の頻発・急増等を背景に、身近な暮らしにおける安全・安心対策がこれまで以上に求められています。

### むらづくりの主要課題

西興部村においては、防災・防犯面での危機管理に対する総合的な対応策や体制を維持・強化し、住民と行政が連携・協働して防災・防犯・治安の維持に努め、住民が安心して暮らせるしくみづくり・むらづくりを進めていく必要があります。

特に、防災に関しては、災害に備えて「特に何もしていない」住民が半数を超えている状況（平成 22 年「住民アンケート調査」結果）を踏まえ、東日本大震災以降、高まりつつある大規模地震等の自然災害に対する防災意識や関心を定着させ、各家庭での防災備品等の備えや地域での防災体制の構築に向けた取組を進めていく必要があります。

## 時代の流れ ライフスタイルの多様化

- 自由時間の増大や生活水準の向上等により、住民の価値観や生活意識はモノの豊かさから心の豊かさを大切にする方向へと変化し、ライフスタイルも一層多様化していくものと考えられます。
- 住民のライフスタイルの多様化と相まって、行政に対するニーズも多様化・高度化するとともに、従来の行政主導型のまちづくりから住民自らが主体となって地域自治に参加・参画する協働のしくみづくりが求められています。

### むらづくりの主要課題

西興部村においては、今後も住民ニーズを的確に把握しつつ、行政と住民によるむらづくりのパートナーシップ※の醸成を図っていくことが重要になります。

その上で、住民自らが自らの選択と責任に基づく協働のむらづくりに積極的に参加・参画するとともに、こうした住民の主体的なむらづくりと、それを支援する行政とが一体となって、協働によるむらづくり・コミュニティ※づくりを実現していくことが求められています。

## 時代の流れ 地方分権のさらなる進展

- 地方分権一括法が施行された平成12年以降、国・道の権限の市町村への移譲等を通じ、住民主導型・地域主導型の地域主権型行政システムに変わりつつあります。
- 分権によるこうした地方自治体の権限と責任の拡大に伴い、今後は各自治体の取組如何によって、市町村間の格差が広がっていくことが予想されます。

### むらづくりの主要課題

西興部村においても、政策運営能力・地域経営能力の向上に努め、ゆとりと豊かさを実感できる地域社会を築いていくことが求められます。

安定した持続可能な自治体運営を図っていくためには、長期的・計画的なビジョンに基づく自主財源の確保という視点が求められています。

限りある資源・財源を有効に活用していく観点から、自治体との広域的な連携・協力により、行政機能の広域的分担などについても検討・推進していくことが重要になります。



**用語説明****グローバル化**

○国家、地域などタテ割りの境界を超え、地球がひとつの単位になるような変化。

**TPP**

○環太平洋経済協定、環太平洋連携協定、環太平洋戦略的経済連携協定、環太平洋パートナーシップ、環太平洋パートナーシップ協定、太平洋間戦略経済連携協定、トランス・パシフィック・パートナーシップ。貿易自由化を目指す経済的枠組みのこと。

**インターネット**

○世界中の数百万台のコンピュータが接続され、数千万人が利用する世界最大のコンピュータ・ネットワークのこと。

**ライフスタイル**

○生活の様式や価値観。

**ユビキタス**

○ラテン語で、「いたるところに存在する。」という意味で、転じてネットワークにいつでもどこからでもアクセスできる環境のことをいう。

**ケーブルテレビ**

○ケーブルを用いて行う有線放送で、有線ラジオ放送以外のもの。

**光ファイバー**

○光信号を伝送するための通信線。

**ブロードバンド**

○広帯域の意味で、一般には高速インターネット接続の意味で使われる。

**地球温暖化**

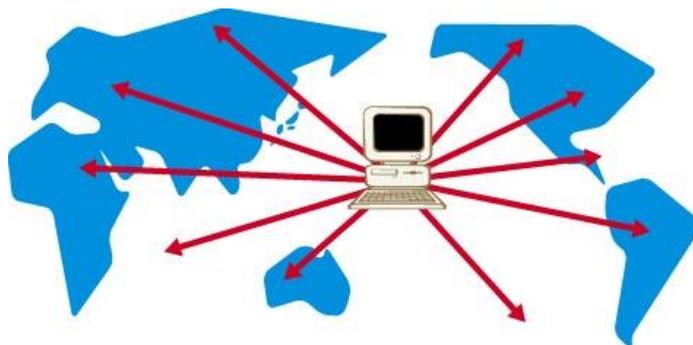
○地球表面の大気や海洋の平均温度が長期的に見て上昇する現象。

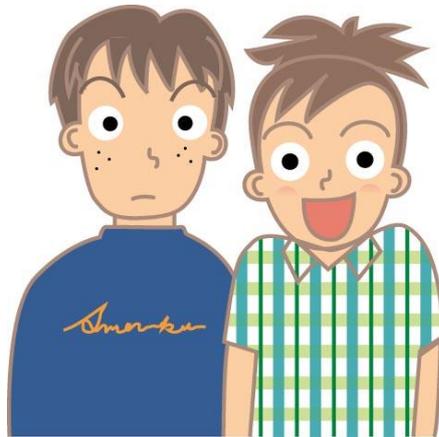
**パートナーシップ**

○友好的な協力関係のこと。

**コミュニティ**

○人々が共同体意識を持って共同生活を営む一定の地域、およびその人々の集団。地域社会。共同体。





むらづくりビジョン

# 基本構想

# 第1章 むらづくりの基本理念

「第3期西興部村総合計画」においては、“これからのむらづくりを進めていく上で、常に立ち返るべき大切な視点”として3つの視点が掲げられています。

本計画においては、これらの視点の考え方を踏襲しつつ、新たに“安全・安心”の視点を加え、むらづくりの基本理念として次の4つを掲げるものとします。

むらづくりの基本理念は、次章に示す将来ビジョンが今後10年間の取り組みの目標であるのに対し、より長期的・普遍的なむらづくりの根本的な考え方・方向性を示すものと言えます。

## むらづくりの基本理念

- **スモール・メリットを活かしたむらづくり**
- **あらゆる資源を活かして育てるむらづくり**
- **安全・安心に暮らせるむらづくり**
- **住民とのパートナーシップによるむらづくり**

## スモール・メリットを活かしたむらづくり

私たちの暮らす西興部村は、人口規模の小さな村です。小さな村には、大きな都市にはない魅力やメリットがたくさんあります。

私たちは、こうした小さな村ならではの魅力やメリットをスモール・メリットとして捉え、その良さを活かしながら、村に暮らす私たち一人ひとりの暮らしに視点をあてた、人にやさしいむらづくりを進めます。

## あらゆる資源を活かし育てるむらづくり

先人が育て残してくれた豊かな森林や動植物などの自然環境、酪農やギター工場、山菜加工場などの産業、充実した高齢者福祉施設や地域情報基盤などの各種施設、そして、そこに住む一人ひとり、これらすべては西興部村に暮らす私たちの資源です。

これらのあらゆる資源を有効に活用しながら、私たちの暮らしがより便利で快適なものとなるように、これからはどちらかといえばハード整備ではなく、ソフト施策の充実を図りつつ、夢のあるむらづくりを進めます。

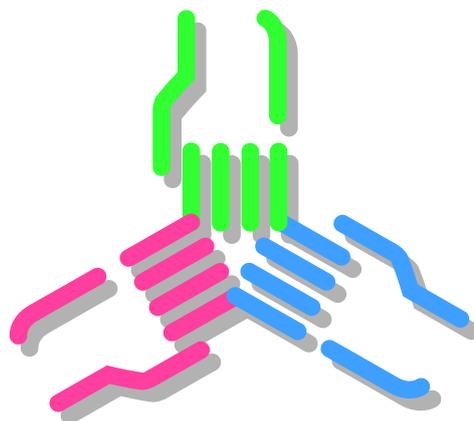
## 安全・安心に暮らせるむらづくり

安心して暮らすことは、常に誰もが心から願っています。西興部村は、幸いに全国でも珍しいほど自然災害の発生が少ない村です。こうした気候や地理的条件に恵まれた私たちの暮らす村の優位性に加えて、悪質な犯罪や交通事故も少なく、田舎特有の人の優しさや心の安らぎを大切に、誰もがいつでも元気で暮らせる安全・安心なむらづくりを進めます。

## 住民とのパートナーシップによるむらづくり

これからのむらづくりは、行政だけではなく、村に暮らす私たち住民とのパートナーシップが不可欠です。

こうした住民と行政とのパートナーシップに基づき、私たち一人ひとりの理想と夢を実現・支援できるむらづくりを進めます。



## 第2章

### 将来ビジョン ～むらづくりのテーマ～

# やすらぎ・かがやき 夢ファームにしおこっぺ

西興部村では、これまで“夢”をひとつのキーワードとしたむらづくりのシンボル施設として3つの夢施設があります。また、今日では西興部村をイメージする言葉として住民に“夢”という言葉が定着してきていますが、それは村の持続的な取り組みの成果でもあります。

さて、3つの夢施設（<sup>リム</sup>森夢・<sup>こむ</sup>木夢・<sup>かむ</sup>花夢）の名称が示すように、村では植物の形態・成長と重ねて“夢”を捉えてきたとも言えます。私たちの考える“夢”には、西興部村に暮らす一人ひとりの“夢”やみんなで共有できる“夢”など、様々な形があります。しかし、誰もが“夢”を描くためには、日々の暮らしの“安心・安全＝やすらぎ”が不可欠であり、また、“夢”への取り組みや実現によって誰もが“元気＝かがやき”をもてると信じています。

私たちは、こうした“夢”の成長・育成の場・舞台として相応しい西興部村を築いていきたいと考えます。そこで、将来ビジョンである村づくりのテーマを「やすらぎ・かがやき“夢ファームにしおこっぺ”」とします。

# 第3章 将来人口

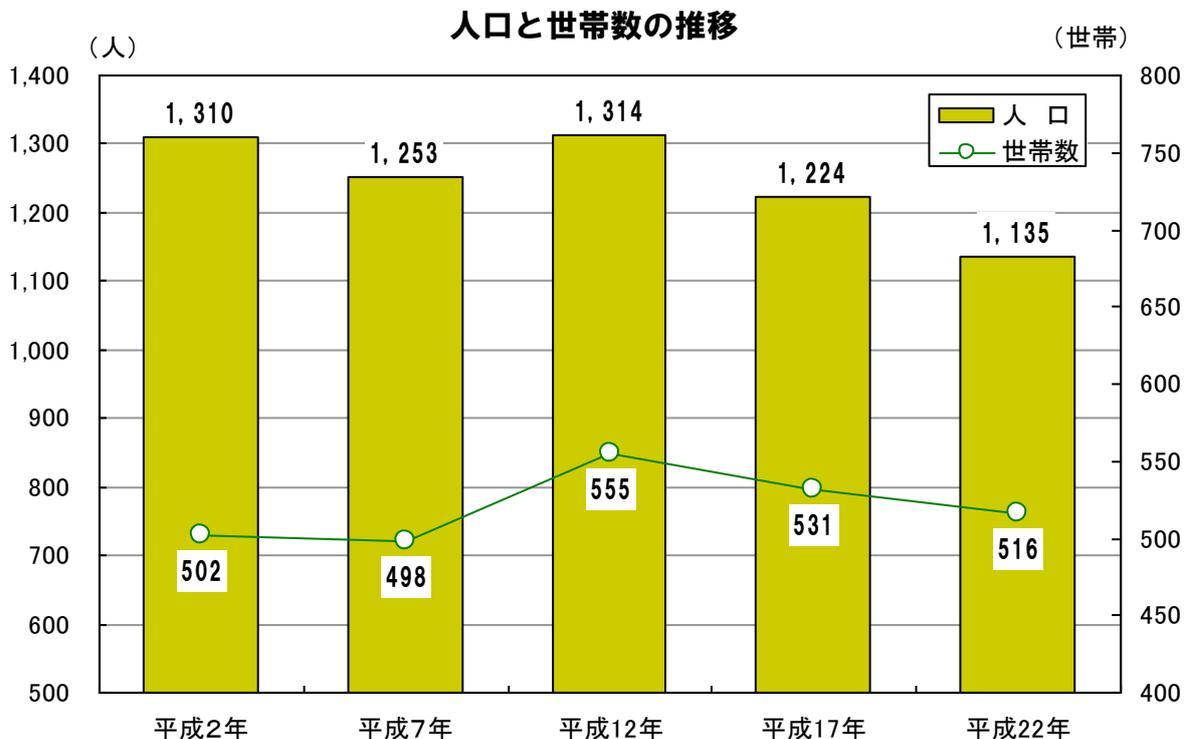
## 1 人口動向

### (1) 人口と世帯数

人口は、平成12年に一旦増加したものの緩やかな減少基調で推移しており、平成22年には1,135人となっています。

世帯数についても、人口と同様に推移しており、平成22年には516世帯となっています。世帯人員規模については、核家族化等の影響により一貫して縮小しており、平成22年では1世帯平均2.20人となっています。

	国勢調査（各年10月1日）				
	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人口（人）	1,310	1,253	1,314	1,224	1,135
世帯数（世帯）	502	498	555	531	516
世帯人員規模（人）	2.61	2.52	2.37	2.31	2.20



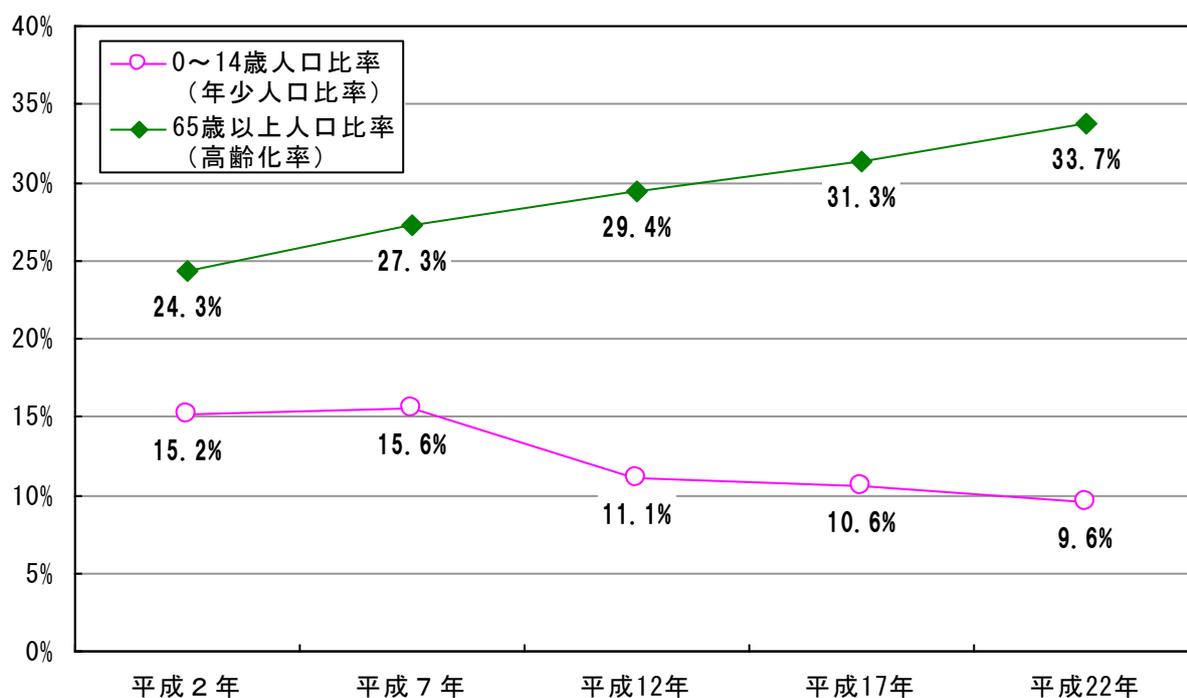
## (2) 年齢別人口構造

総人口が減少する中、年齢別の人口について平成2年と平成22年とを比べると、0～14歳人口は199人から109人に、15～64歳人口は793人から643人にそれぞれ減少していますが、65歳以上人口は318人から383人に増加しています。

構成比で見ると、0～14歳人口が15.2%から9.6%に、15～64歳人口が60.5%から56.7%に減少する一方で、65歳以上人口は24.3%から33.7%へと着実に増加し、少子高齢化が進行していることがわかります。

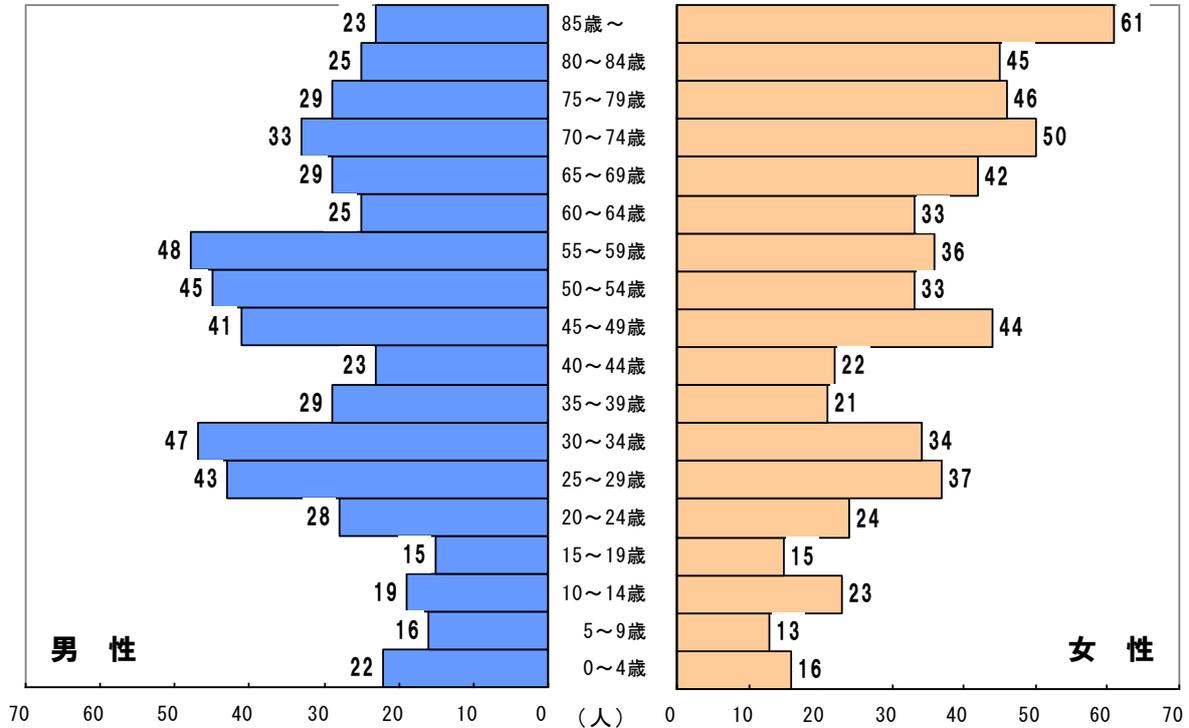
	国勢調査（各年10月1日）				
	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人口（人）	1,310	1,253	1,314	1,224	1,135
0～14歳	199	195	146	130	109
15～64歳	793	716	782	711	643
65歳以上	318	342	386	383	383
構成比	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
0～14歳	15.2%	15.6%	11.1%	10.6%	9.6%
15～64歳	60.5%	57.1%	59.5%	58.1%	56.7%
65歳以上	24.3%	27.3%	29.4%	31.3%	33.7%

年少人口比率と高齢化率の推移



年齢別人口構造を人口ピラミッドとして性別にみると、男女間の平均寿命格差等を背景に、高齢層において女性人口が男性人口を大きく上回っていることがわかります。

人口構造（国勢調査：平成22年10月1日）



### (3) 産業別就業人口

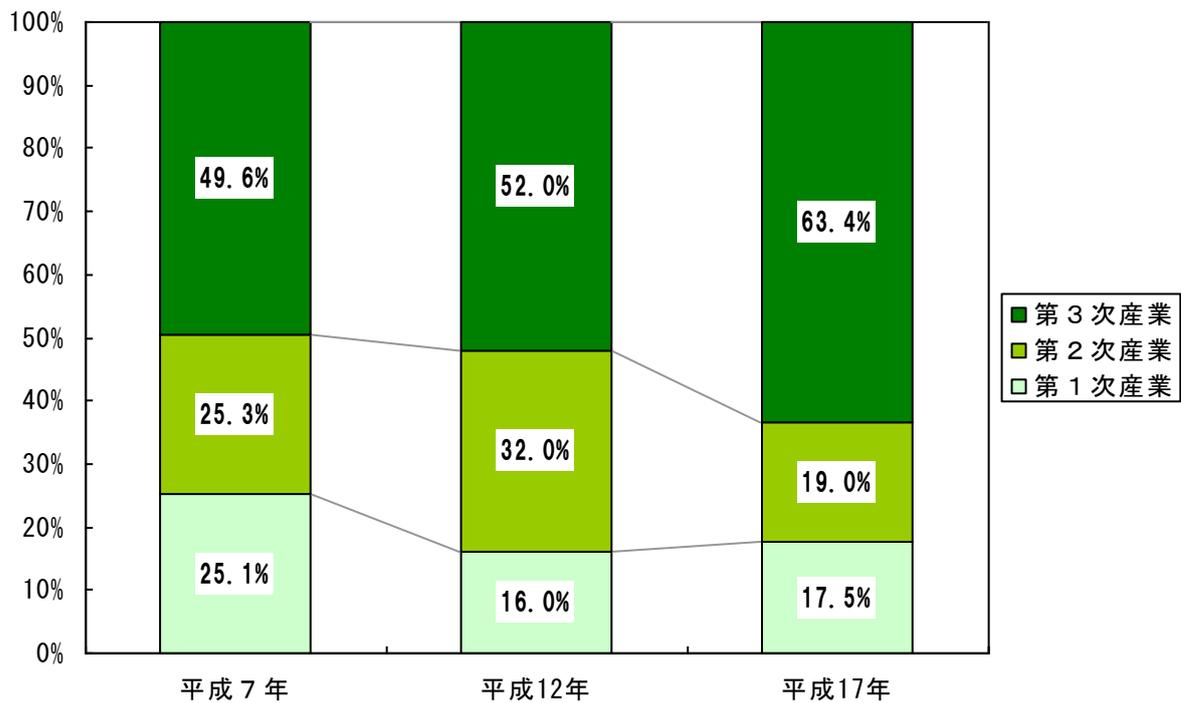
産業構造を就業人口の面からみると、平成17年時点での就業者数は599人で、その内訳は第1次産業が105人、第2次産業が114人、第3次産業が380人となっています。

就業者の構成比について平成7年と平成17年を比べると、第1次産業が25.1%から17.5%、第2次産業が25.3%から19.0%と減少する中、第3次産業については49.6%から63.4%へと多く増加しており、本村においても産業構造のサービス化が進展していることがわかります。

	国勢調査（各年10月1日）		
	平成7年	平成12年	平成17年
就業者数（人）	653	663	599
第1次産業	164	106	105
第2次産業	165	212	114
第3次産業	324	345	380
構成比	100.0%	100.0%	100.0%
第1次産業	25.1%	16.0%	17.5%
第2次産業	25.3%	32.0%	19.0%
第3次産業	49.6%	52.0%	63.4%

# 第4期西興部村総合計画

## 産業別就業人口

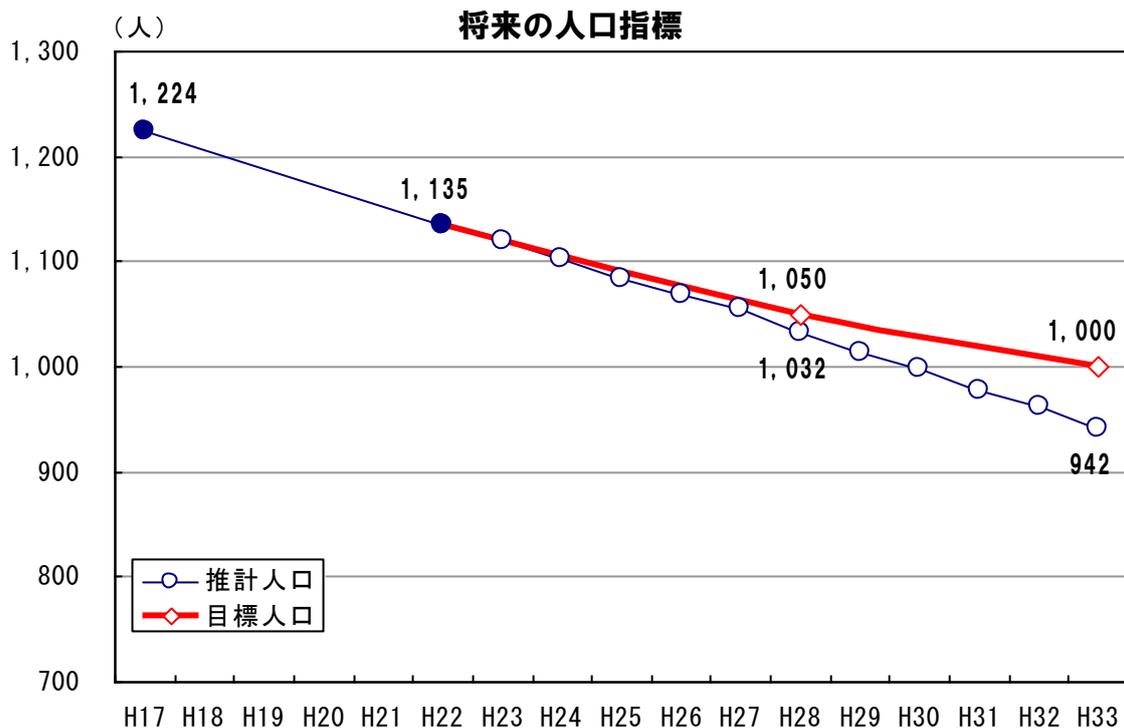


## 2 将来の人口指標

近年における村の人口動向を踏まえ、将来人口を推計（コーホート変化率法※）すると、今後も緩やかな人口減少が続くことが予想され、前期基本計画の目標年である平成28年には1,032人、また、基本構想の目標年である平成33年には942人にまで減少することが見込まれます。

本計画では、こうした推計人口を踏まえた上で、村の魅力の向上など、今後10年間のむらづくりの効果的背景に人口減少が抑制されることを想定し、平成28年には1,050人、また、平成33年には1,000人の人口を確保することを目標とします。

	国勢調査（各年10月1日）		推計人口		目標人口	
	平成17年	平成22年	平成28年	平成33年	平成28年	平成33年
人口	1,224	1,135	1,032	942	1,050	1,000
0～14歳	130	109	103	103	110	110
15～64歳	711	643	579	499	590	550
65歳以上	383	383	350	340	350	340
構成比	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
0～14歳	10.6%	9.6%	10.0%	10.9%	10.5%	11.0%
15～64歳	58.1%	56.7%	56.1%	53.0%	56.2%	55.0%
65歳以上	31.3%	33.7%	33.9%	36.1%	33.3%	34.0%



**用語説明**

**コーホート変化率法**

- 「コーホート」とは、同じ年（又は同じ期間）に生まれた人々の集団のことを指し、各コーホートについて、過去における実績人口の動勢から「変化率」を求め、それに基づき将来人口を推計する方法。



# 第4章

## むらづくりの目標

将来ビジョンの実現に向け、2つの基本目標と5つの分野別目標を掲げます。

### 1. むらづくりの基本目標

#### 基本目標1 人が安心・むらが安心

近年においては、めまぐるしい社会制度の変化、これまで考えられなかった犯罪や未曾有の災害が発生するなど、「安心」・「心の安らぎ」がより強く求められています。こうした中で、住民アンケートでも安全や安心して暮らすことが強く望まれており、安全な暮らしへの環境整備や防災・防犯体制の強化、医療・福祉の充実などを図り、子どもから高齢者まで誰もが「安心」を実感できるむらづくりを進めます。

#### 基本目標2 人が元気・むらが元気

住民の元気がむらの元気の源です。そこに暮らす人々が元気でなければむらの元気はありません。元気な人であるためには、安全で安心して暮らせることはもちろんですが、生きがいや将来に夢をもてることなどが大切です。元気な人がたくさん集まれば小さなむらも元気になります。そのためにも働く場があること、子どもを安心して育てられる環境づくり、若い世代が夢を持てること、高齢者が生きがいを持って生活できることなど、新しい取り組みにも挑戦し「元気」を創出するむらづくりを進めます。

### 2. むらづくりの分野別目標

#### 分野別目標1 美しく快適で安全なむら

##### ◆ 夢を描く舞台づくり ◆

私たちの暮らす西興部村は、私たち一人ひとりの暮らしのメインステージ（舞台）であり、また、むらを形成する自然そのものが次代へと継承していくべき私たちみんなの財産であることを認識し、こうした自然環境・地域環境の中で快適性と安全性を享受できる生活環境の形成を進め、自然環境と生活環境と私たちの暮らしとが調和した、美しく快適で安全なむらづくりを目指します。

## 分野別目標2

## ともに支えあい、安心して暮らせるむら

### ◆ 夢と支えあいの安心環境づくり ◆

少子高齢化社会の中で、西興部村に暮らす私たち一人ひとりが生涯を通じて自らの健康づくりに取り組み、住民誰もが住み慣れた地域でいつまでも生き生きと安心して暮らせるよう、子どもから高齢者まですべての人が地域の中で互いに支えあうむらづくりを目指します。

## 分野別目標3

## 活力と交流のむら

### ◆ 夢を生み出す産業づくり ◆

地域に活力があふれ、むらが元気であるために、恵まれた自然をはじめとする、さまざまな資源を活用しながら、そこに営まれる産業の振興を図るとともに、西興部村の魅力を発信し、交流と賑わいのむらづくりを目指します。

## 分野別目標4

## 人と文化を育てるむら

### ◆ 夢を育む人づくり ◆

次代を担う子どもたちやむらに暮らす私たち一人ひとりが、それぞれの目指す夢に向かってともに主体的に学びあうことができ、また、西興部村が私たちのふるさととして誇りあるむらであり続けられるよう、地域の歴史・文化を大切にするむらづくりを目指します。

## 分野別目標5

## みんなで創るむら

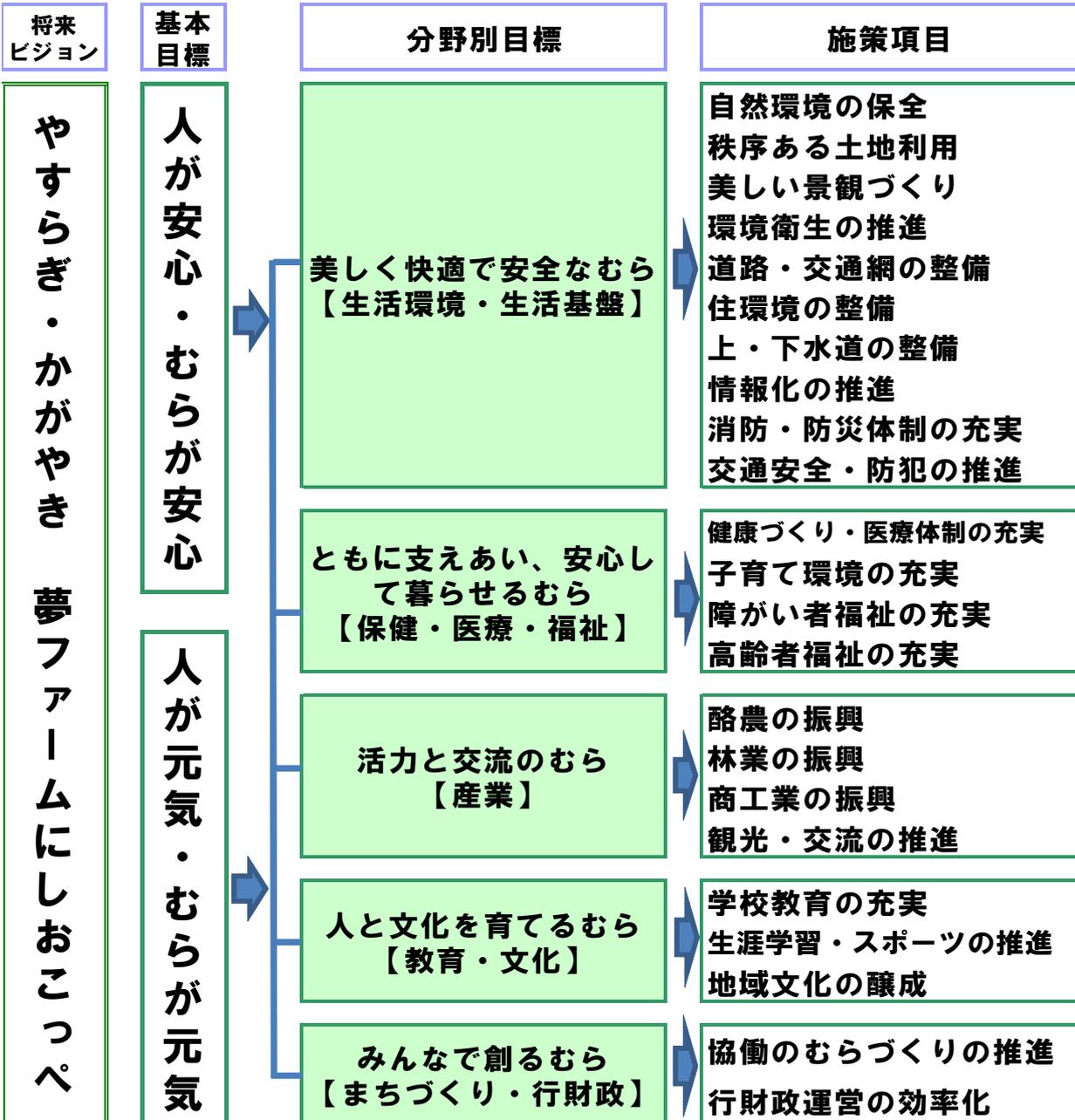
### ◆ 夢を叶えるしくみづくり ◆

自律したむらとしての安定的かつ持続可能な行財政運営の下、私たち住民一人ひとりがそれぞれの地域・コミュニティの中で主体的にむらづくりや住民活動に参加することで、それぞれの役割を担いながら、私たち一人ひとりが主役になれる活力あふれる協働のむらづくりを目指します。

# 第5章 むらづくりの施策体系

## 1 施策体系

基本理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ スモール・メリットを活かしたむらづくり</li> <li>○ あらゆる資源を活かし育てるむらづくり</li> <li>○ 安全・安心に暮らせるむらづくり</li> <li>○ 住民とのパートナーシップによるむらづくり</li> </ul>
------	--



## 2 施策の大綱

### 分野別目標1

## 美しく快適で安全なむら 【生活環境・生活基盤】

- ◆ウエンシリ岳など、村面積の89%を占める森林や、これら森林を源流域とする興部川・藻興部川などの河川について、その保全に努めるとともに、村の貴重な資源として持続的な活用を図ります。

- 施策項目**
- 自然環境の保全
  - 秩序ある土地利用

- ◆「美しい村づくり条例」の理念を踏まえつつ、美しく調和のとれた景観づくりを進めるとともに、若者等の定住を促せるよう、生活の利便性と快適性（アメニティ）に配慮した生活環境の向上を図ります。

- 施策項目**
- 美しい景観づくり
  - 環境衛生の推進
  - 道路・交通網の整備
  - 住環境の整備
  - 上・下水道の整備
  - 情報化の推進

- ◆防災や安全に対する意識が高まる中、災害に強いむらづくりを進めるとともに、地域における防災・防犯等のしくみづくりに取り組みます。

- 施策項目**
- 消防・防災体制の充実
  - 交通安全・防犯の推進

## 分野別目標2

### ともに支えあい、安心して暮らせるむら 【保健・医療・福祉】

◆子どもから高齢者まで、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域や関係機関等を含め、保健・医療・福祉が連携した地域包括ケア体制づくりを進めるとともに、住民一人ひとりが福祉に関心を持ち、地域で生き生きと暮らしていくことができる環境づくりに取り組みます。

- 施策項目**
- 健康づくり・医療体制の充実
  - 子育て環境の充実
  - 障がい者福祉の充実
  - 高齢者福祉の充実

## 分野別目標3

### 活力と交流のむら 【産 業】

◆村の主たる地域産業である酪農について、環境への負荷を抑制しつつ、酪農を担う人材の育成や経営基盤の改善・強化に努めるとともに、魅力ある地域資源を夢資源として磨き、そのネットワーク化を進めるなど、にぎわいある集客・交流のしくみづくりに取り組みます。

- 施策項目**
- 酪農の振興
  - 林業の振興
  - 商工業の振興
  - 観光・交流の推進

## 分野別目標4

# 人と文化を育てるむら

【教育・文化】

◆次代を担う子どもたちが、創造性豊かにたくましく成長できるよう、少人数ならではの個性ある学校づくりを進めるとともに、住民誰もが生涯を通じて主体的な学習活動ができるような機会と場の提供に努めるなど、生涯学習のための環境整備を図ります。

- 施策項目**
- 学校教育の充実
  - 生涯学習・スポーツの推進
  - 地域文化の醸成

## 分野別目標5

# みんなで創るむら

【まちづくり・行財政】

◆充実した情報通信基盤等を活用しつつ、住民の主体的なむらづくり活動や自主的活動組織を支援するなど、住民と行政の協働パートナーシップの醸成を図るとともに、分権型社会に対応した、効率的な行財政運営に取り組みます。

- 施策項目**
- 協働のむらづくりの推進
  - 行財政運営の効率化